

埼玉 **アーツシアター** 通信

SAITAMA ARTS THEATER PRESS

2014.1-2

NO. **49**

Caligula

さいたまネクスト・シアター第5回公演

2014年・蒼白の少年少女たちによる

カリギュラ

SAITAMA NEXT THEATRE



蜷川幸雄インタビュー／2014 ラインナップ発表!

わたしを離さないで／海辺のカフカ／コンドルズ／フィリップ・ドゥクフレ

北村朋幹／バッハ・コレギウム・ジャパン《マタイ受難曲》



SAITAMA
ARTS
THEATER

2014.1-2
NO. 49

- 03 **PLAY** さいたまネクスト・シアター第5回公演
『2014年・蒼白の少年少女たちによる「カリギュラ」』
蜷川幸雄インタビュー
- 06 **PLAY** アルベール・カミュ『カリギュラ』について
カリギュラはわれわれのなかにいる
- 08 **PLAY** 『わたしを離さないで』
映像で楽しむカズオ・イシグロの世界
- 09 **PLAY** 『海辺のカフカ』再演決定!
- 10 **DANCE** コンドルズ 埼玉公演2014新作
- 11 **DANCE** フィリップ・ドゥクフレ『PANORAMA ーパノラマ』
- 12 **LINE UP** 彩の国2014ラインナップ発表!
- 14 **MUSIC** ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.2 北村朋幹
- 16 **MUSIC** バッハ・コレギウム・ジャパン バッハ《マタイ受難曲》
- 18 **REVIEW** 2013.11-12 彩の国のアーツ
- 20 イベント・カレンダー／チケットインフォメーション
彩の国シネマスタジオ
- 23 THEATER BRIDGE



COVER
さいたまネクスト・シアター
(上) 第3回公演『2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」』
(中) 第4回公演『2013年・蒼白の少年少女たちによる「オイディプス王」』
(下) [ザ・ファクトリー4] 『ヴォルフガング・ホルヒェルトの作品からの九章一詩・評論・小説・戯曲より』
Photo◎宮川舞子

SAITAMA ARTS THEATER PRESS 2014.1-2 No.49
編集◎市川安紀 [アルカディア社]、結城美穂子 デザイン◎中野一弘、鶴田大志、河西謙一 [bueno]

◎公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団
Published on 15 January 2014 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation
※掲載情報は、2013年12月25日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。

蜷川幸雄

Interview

さいたまネクスト・シアター第5回公演

2014年・蒼白の少年少女たちによる 「カリギュラ」

蜷川幸雄芸術監督のもと2009年に結成、『真田風雲録』『美しきものの伝説』と日本の近代劇を上演したさいたまネクスト・シアターは、次いで『ハムレット』『オイディプス王』と西洋古典劇の王道に挑戦。1作ごとに新たな地平を切り拓いてきた。新しい年を迎える第5回公演では、アルベール・カミュ作『カリギュラ』の上演が決定! 若者たちへの怒りを創造のエネルギーへと転化させ、蜷川幸雄は今日も気炎をあげる。

取材・文◎市川安紀 Photo◎宮川舞子



の芝居に出て参加しない俳優もいましたが、今回は内田健司がよかった。彼が味わってきた苦渋と、時代を象徴する痩せこけた身体が生かされたんじゃないかな。今まで主役をやっていた俳優たちが出ないぶん、新鮮だったという声を多く聞きました。僕が20代の頃からやりたかった作品で、ある種、透明な叙情があったと思います。やり始めたら、怒りを忘れて面白かった(笑)。

——ほぼ同時期にネクスト・シアターの第4期オーディションもありましたね。

今回は650余名の応募者の中から男女あわせて14名を採りました。最近ではエンピツみたいに細い若者をあえて選んでいましたが、今後も見据えて、骨格的にもちょっと強いキャラクターが欲しいな、と。

——オーディションで新たなメンバーが入ると現メンバーも危機感を持つ

ギュラ』に決定しました。

いろいろ候補があったんですが、大勢の劇団員が出られる作品で競争させるのがいいかなと。本当は若い時に自分がやりたかったんです。

——あ、蛭川さんがカリギュラ役を？

そう。自分には出来ないけれど、「この精神は俺が一番わかっている！」と思って、長年自分の中に溜めて持っていたわけです。



さいたまネクスト・シアター 第4回公演『2013年・蒼白の少女少女たちによる「オイディプス王」』

それを数年前に小栗旬君に仮託して上演したんですが、今度は若者たちのエンピツのような肉体を中心に、まったく違う『カリギュラ』が創れるだろうと思っています。なるべく大仰なセットも創らずにね。

——『ハムレット』に登場したこまどり姉妹、『オイディプス王』で全員が弾いた三味線のように、西洋のロジカルな言葉に対抗する「異物」の投入を何か考えていますか。

まだそこまでは至りませんね。ただ、今回は日本的なキーワードは入れなくても成立するんじゃないかとは思っています。

——これまでの公演の流れを見ると、群像劇から俳優の〈個〉の力が必要な作品へと移行しています。これは意識的ですか。

テーマを背負わさないと俳優は成長しないですよ。いい役に抜擢され、プレッシャーで物が食べられなくなるくらいの経験をして、初めて本当の意味で成長していく。それと、大勢が舞台に出ている中で「どの俳優に注目して応援していこうか」というお客さんの〈目〉の分も、俳優が成長してくれるといいなと思いますね。

——カリギュラは古代ローマの有名な暴君ですが、鬱屈が内に向かうか外への破壊衝

動になるかの違いだけで、ハムレットにもどこか共通するように思えます。

孤立無援の人が持っている強さと叙情が明らかにあって、敗れゆく人間の凄みに、僕はどうしても共感を覚える。自分史と重ねる気はないけれども、自分の場所がなくなっていった演劇生活の中での闘争と似た部分は当然あるわけで、自分の中の何かと

重なるところが少しあると、作品が面白くなりますね。

——ご自身の原点をもう一度覗き込むことから、創作とは何かをまた考える。

そのことが若い人たちに通じればいいなと思ってはいるけど、なかなか通じないですね。理解されないもどかしさを抱えながら、僕は仕事をしてるんです。だってシンガポールでは「三大巨匠」と言われているんですよ！ 自分で言っちゃったけど(笑)。

——11月にピーター・ブルック、サイモン・マクバーニーと並んで『ムサシ』がシンガポールに招待されたんですね。

ハハハ、そうです。そんな悔しい思いをしながらも、ネクストにいる俳優は僕と一緒に仕事したいからいるんだ、ってことくらいは思いたいわけです。こっちもいつまでも生きてるわけじゃないから、ちゃんと頭が働くうちに、ある程度の目鼻をつけ

たいと急いでいるんです。時代を象徴するいい俳優が生まれるかもしれない、という希望を持ちながらね。

——では今後、集団としてのネクスト・シアターにどんな未来像を描いていますか。

馬の耳に念仏かもしれないけれど、演劇の理想や演技の理想を説き続けて、残る人だけ残ればいいと思っています。例えば今回の『カリギュラ』のように、僕が若い時に読んでずっと胸に抱えていたものが、数十年経って花開くことがある。教養というのは本を読んだり、絵を見たり、音楽を聞いたりしながら、自分に足りない何かを足していこうとすることでしょう？ 勉強することを誇りに思い、どういう俳優になりたいかという理想を持って、人を震撼させるほどの演技をしてほしい。『カリギュラ』を2014年のいい出発点にしたいですね。

カリギュラの精神を若者たちの 肉体に仮託してまったく 新しい作品が創れると思う



【ザ・ファクトリー4】さいたまネクスト・シアター『ヴォルフガング・ボルヒェルトの作品からの九章一詩・評論・小説・戯曲より』(2013年11月)

——元は夭折したドイツの作家ヴォルフガング・ボルヒェルトの詩や小説から、若き日の蛭川さんが構成・演出したものとか。

まだ俳優として劇団青俳にいた1967年に、劇団に対する不満から若い研究生に声をかけて稽古場公演を創ったんです。蟹江敬三、石橋蓮司たちもみんな若くて無名だったという点ではネクストと共通項もあるし、初心に帰ってやってみよう。ほか

では？

オーディションというより、ザ・ファクトリーの公演で持ったと思いますよ。自分がどれだけ出来ないか、なぜいい役がつかないのか、分からせることが大事な教育ですね。

敗れゆく人間の強さと叙情

——さて、ネクストの第5回公演は『カリ

Story

溺愛する妹ドリュジラの突然の死をきっかけに失踪した若きローマ皇帝カリギュラ。3日ぶりに姿を現わした彼は、ローマ市民の財産の没収と無差別に市民を処刑することを宣言し、以後、ローマ帝国を恐怖のどん底に落とし入れる。

3年が過ぎ、屈辱に耐えかねた貴族たちはクーデターを画策するが、貴族ケレアは時期尚早だといさめる。ケレアはカリギュラの狂気に何か大きな理念を感じており、カリギュラの論理が錯乱するのを待つつもりだった。一方、若き詩人シビオンは父親をカリギュラに惨殺され、彼もまたカリギュラを憎んでいたが、カリギュラと言葉を重ねるうちにカリギュラの想いを理解し始める。

カリギュラの情婦セゾニア、カリギュラによって奴隷から貴族に重用されたエリコンは、カリギュラを理解し、彼を支え続ける。しかし、貴族たちのクーデターはすぐそこまで迫っていた――。

アルベール・カミュ
Albert Camus

1913年	フランス領アルジェリアに生まれる。翌年父が戦死。
1936年	アルジェ大学を卒業。在学中より労働座で演劇活動。
1937年	初のエッセイ集『裏と表』刊行。
1939年	第二次世界大戦勃発。エッセイ『結婚』。
1942年	小説『異邦人』、エッセイ『シーシュポスの神話』刊行。
1944年	戯曲『誤解』初演。
1945年	戯曲『カリギュラ』パリにて初演。ジェラルド・フィリップ主演で成功を収める。
1947年	小説『ペスト』刊行。
1948年	戯曲『戒厳令』初演。
1949年	戯曲『正義の人びと』初演。
1951年	エッセイ『反抗的人間』刊行。翌年、サルトルによるカミュ批判（カミュ＝サルトル論争）。
1953年	『十字架への献身』『精霊たち』（翻案）。
1956年	小説『転落』刊行。
1957年	ノーベル文学賞受賞。
1959年	『悪霊』（翻案）。
1960年	自動車事故死。遺作は未完の自伝的小説『最初の人間』。



カリギュラ

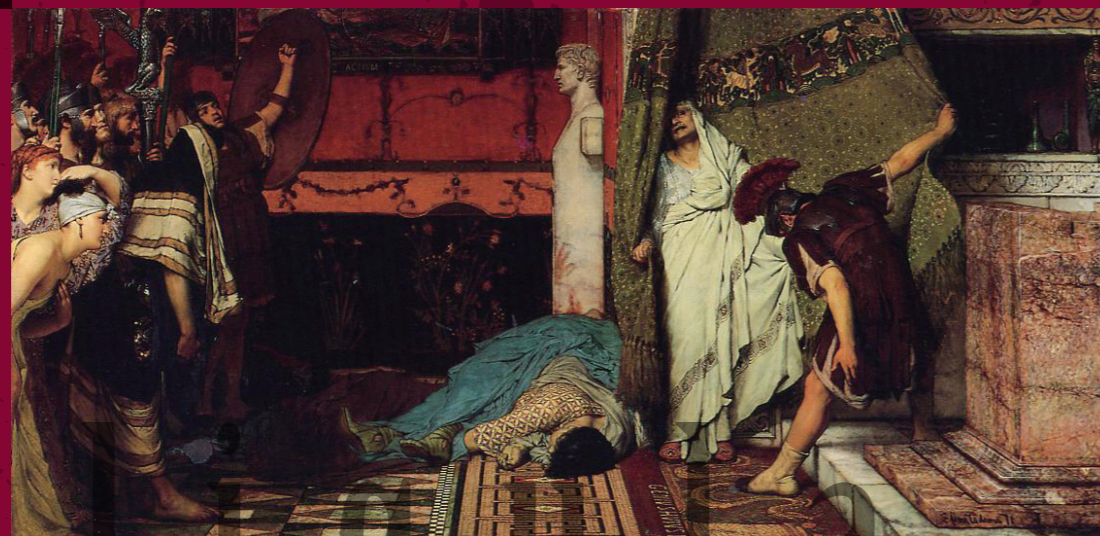
妹ドリュジラ

それは悪の快楽でもなければ、権力の野望でもない。

皇帝カリギュラは、おなじカミュの小説『異邦人』のムルソーと同じように、規範から逸脱した「異邦人」、「よそ者」、エトランジェだ。ただし彼は、ムルソーと違って、残酷や狂気を自覚的に演じる。同時に、愛人のセゾニアにだけは、自分の心と体を襲う絶望と苦悩を吐露する弱さもあわせ持つ。だがそれを振り払い、「論理だ、カリギュラ、どこまでも論理を追ってゆけ。権力の果てまで。[...] 終わりまで行くことが肝心だ！」と叫ぶ。なぜわざわざそんなことをするのだろうか？ 真意を見抜いているのはケレアだ。「あの男は考えることを強要する」と彼は仲間の貴族たちに言う。「みんなにむりやり考えさせる。安全ではない、ということが、人を考えさせるのだ」

カミュのカリギュラは、さまざまな価値の複合体であり、ひとつの価値観だけではうまく裁けない。規範を逸脱し根源的な問いを投げかけるものとして、彼は芸術の象徴であり、生身のまま無限へひらかれた者であり、また苦悩する若者の代表である。同時にまた、安全ではないものとして、たとえば原発、たとえば危険な国家理念である。いずれにしても、カリギュラはわれわれのなかにいる。(1937年の『手帖』に記された終幕の台詞は、「カリギュラは死んではいない。彼はきみたち一人ひとりのなかにいる」という内容だった)

蜷川幸雄と若い俳優が、2014年、日本の政治的・文化的状況のなかで、『カリギュラ』のなかからわたしたちにどんな「何故？」をかきたて、何を突きつけるのか、舞台が待ち遠しい。



アルマ＝タデマ画によるカリギュラ暗殺図(1871年)

さいたまネクスト・シアター『2014年・蒼白の少年少女たちによる「カリギュラ」』

カリギュラは われわれのなかにいる

文◎岩切正一郎（翻訳家、国際基督教大学教授）

「カリギュラ」はローマ皇帝ガイウス・カエサル(在37～41年)の綽名で、「可愛い兵隊靴ちゃん」を意味する。即位は24才の時。市民に歓びをもって迎えられたが、途中から暴君に変わり、最後は暗殺されて短い一生を終えた。

スエトニウスの『ローマ皇帝伝』を通じて皇帝カリギュラに心酔していたカミュ(1913～1960年)は、1937年1月、『手帖』に「カリギュラ」最初の構想を記した。即位から死までを辿る筋立てのメモである。

その頃カミュは友人と設立した劇団「労働座」で活発な演劇活動を行っていた。いっばう、2年半前に結婚した妻シモーヌとの関係は破局を迎え、アルジェを見下ろす丘に建ち、女友達の住む広大な家――「世界を望む家」と呼ばれていた――に頻りに出入りして

いた。そこにはカリギュラにちなんでカミュの命名した2匹の猫「カリ」と「ギュラ」も暮らしていた。カミュはサッカーと演劇の大好きな青年だったが、肺結核のためにサッカーは諦め、学問を積んで教授になる道も閉ざされ、演劇と文筆活動が残った。

史実として伝わる若き皇帝の言動に独自の哲学的解釈をほどこし、1941年に戯曲「カリギュラ」が完成した(初演は1945年)。人間の不条理な実存を越え出て「不可能」を求める精神の悲劇を、主人公の肉体に宿らせたのだ。

幕があくと、舞台はすでに波乱含みの状況だ。妹で愛人でもあったドリュジラの死からすでに3日、カリギュラは失踪したまま消息を絶っている。宮廷の貴族たちはそれについてあれこれ意見を言い合っている。即位以来カリギュラは役人である彼らにとって「非の

打ち所のない皇帝」、つまりとても御し易い人物なのだった。けれども今、なにか漠然とした不安が兆している。

ローマ帝国という統治システムのなかで、それまでカリギュラは――たとえ最高位にあっても――パーツのひとつでしかなかった。ところが、ドリュジラの死をきっかけに、彼は突然その関係性から自分を解き放ち、まったく次元の違ったあり方へ飛び出してしまう。彼は今、ひとつの「真実」に目覚めたところだ。そのために、たんなる社会的パーツとしての存在であることを決然と拒否し、人々へ暴力的に関わることを選ぶ。人々のなかに「何故？」という問をかきたて、人間の条件を自覚させる、意識的な暴君であろうとするのだ。彼の欲望は、「不可能」なものを手に入れようとする形而上的な欲望であり、

公演概要

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
さいたまネクスト・シアター第5回公演

『2014年・蒼白の少年少女たちによる「カリギュラ」』

日 時：2月15日(土)～27日(木)

2月	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
13:00	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
18:30	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★

※◎印の回は記録映像収録のため場内にカメラを設置いたします。

会 場：彩の国さいたま芸術劇場 インサイド・シアター（大ホール内）
※本公演は大ホール舞台上の特設会場での公演のため、座席の仕様が通常と異なります。
作 者：アルベール・カミュ
翻 訳：岩切正一郎
演 出：蜷川幸雄
出 演：さいたまネクスト・シアター

チケット(税込) 好評発売中
全席自由／一般4,000円 メンバーズ3,600円



『わたしを離さないで』(左より) キャリー・マリガン、キーラ・ナイトレイ、アンドリュー・ガーフィールド (監督: マーク・ロマネク 2010年/イギリス・アメリカ)



『わたしを離さないで』 Never Let Me Go Blu-ray: 2,500円(税込) 好評発売中 20世紀フォックス ホームエンターテインメント ジャパン ©2012 Twentieth Century Fox Home Entertainment LLC. All Rights Reserved.

『わたしを離さないで』

映像で楽しむカズオ・イシグロの世界

ネクスト・シアターの若者を叱咤激励しながら蜷川幸雄が次に挑むのは、英国籍の日本人作家カズオ・イシグロの世界的ベストセラー小説『わたしを離さないで』の舞台化である。1982年に長編デビューしたイシグロは、89年発表の第3作『日の名残り』で英国最高の文学賞ブッカー賞を受賞、国際的作家として一躍脚光を浴びる存在となった。本作と2005年発表の『わたしを離さないで』は映画化もされ、いずれも原作の手ざわりや匂いを損なわない佳作となっている。

映画『わたしを離さないで』(2010年)は、幼い頃から寄宿学校で育った3人の

若者の恋と友情を描く。と書くところからいふれた青春映画のようだが、学校の“秘密”と彼らの過酷な運命を知ったとき、彼らが過ごす一瞬一瞬はかけがえのないきらめきと痛みを伴って観る者の胸に迫り来る。『17歳の肖像』のキャリー・マリガン、『ソーシャル・ネットワーク』のキーラ・ナイトレイという人気若手俳優の競演も話題で、特にすべてを受け入れようとするマリガンの繊細な強さが印象深い。小説とは違い“秘密”は早々に明かされるが、予備知識なく舞台を楽しみたい方は、映画も小説も舞台観賞後のお楽

しみとしておくほうが賢明かもしれない。一方、映画『日の名残り』(93年)は、『眺めのいい部屋』『ハワーズ・エンド』とヒットを飛ばしていたジェームズ・アイヴォリー監督作品。『ハワーズ〜』に続き名優アンソニー・ホプキンスとエマ・トンプソンの共演で、英国貴族に長年仕えたストイックな執事と女中頭との人間模様を綴る。古きよき日々を回想する執事が知らぬ間に失っていたものとは? イシグロが描く人物たちは与えられた運命に抗わず、逃げず、その中で出来る限りの“生”を全うしようと励む。まずは映像でその世界を味わうのも一興だ。

公演概要

英国最高の文学賞、ブッカー賞受賞作家カズオ・イシグロの傑作に蜷川幸雄が挑む! 彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念 『わたしを離さないで』

日時: 4月29日(火・祝)~5月15日(木)

4月	29	30	5月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	火	水	木	金	土	日	祝	祝	祝	水	木	金	土	日	月	火	水	木
13:00			13:00			★	★		★				★	★				
13:30		★	13:30	★	★			休		★	★	★			休	★	★	★
18:00	★		18:00			★							★					
18:30			18:30	★						★								★

会場: 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
 原作: カズオ・イシグロ(『NEVER LET ME GO』)
 演出: 蜷川幸雄
 脚本: 倉持裕
 出演: 多部未華子、三浦涼介、木村文乃/床嶋佳子/銀粉蝶 ほか

チケット(税込)
 一般・メンバーズ: S席9,000円/A席7,000円/B席5,000円(学生3,000円)
 ※本公演はメンバーズ料金設定はございません。

発売日: 一般1月18日(土) ※メンバーズ発売中



『日の名残り』(左より) アンソニー・ホプキンス、エマ・トンプソン (監督: ジェームズ・アイヴォリー 1993年/イギリス)



『日の名残り』 The Remains of the Day Blu-ray: 2,500円(税込) 好評発売中 発売: 販売元: (株) ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント ©1993 COLUMBIA PICTURES INDUSTRIES, INC. ALL RIGHTS RESERVED.



2012年初演の舞台より Photo ©渡部孝弘

2012年、日本の演劇史に刻まれる舞台が誕生した。それは、村上春樹の世界的ベストセラー小説を蜷川幸雄の演出で舞台化した『海辺のカフカ』。原作の透明感溢れる世界観を美しく繊細に具現化して大きな評判を呼んだこの舞台が、再演を望む熱い声に応え、今年、埼玉に蘇る。『海辺のカフカ』は、「世界で最もタフな15歳になる」ことを決意した少年カフカと、彼をとりまく人たちの物語。蜷川は、ニューヨークの自然史博物館で見た精巧なミニチュアがガラスボックスに入っている光景から着想を得たという巨大なアクリルボックスを、舞台上で縦横無尽に行き来させ、カフカの魂の旅路を流れるように表現した。この息を呑むほど美しく大がかりな仕掛けに多くの観客が度肝

を抜かれたことだろう。蜷川は、現実とも幻想ともつかない世界観を見事なまでに視覚化させた。

この再演にあたり豪華なキャストが揃った。まずは、カフカが四国で出会う謎めいた女性・佐伯役に、舞台女優として稀有な輝きを放ち続ける宮沢りえ。「下谷万年町物語」、『盲導犬』と、唐十郎と蜷川の最強コンビによるアングラ演劇に出演し、鮮烈な印象を残してきた宮沢が、今度はどのような顔をのぞかせてくれる



宮沢りえ 藤木直人 鈴木杏 木場勝己

公演概要

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念 『海辺のカフカ』

日時: 6月1日(日)~6月7日(土)

6月	1	2	3	4	5	6	7
	日	月	火	水	木	金	土
12:30					★		★
13:30			休		★	★	
17:45	★	★			★		★

※東京公演(赤坂 ACT シアター)あり。

会場: 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
 原作: 村上春樹
 脚本: フランク・ギャラティ
 演出: 蜷川幸雄
 出演: 宮沢りえ、藤木直人、鈴木杏、柿澤勇人、高橋努、鳥山昌克、木場勝己ほか

チケット(税込)
 一般・メンバーズ: S席9,800円/A席7,000円
 ※本公演はメンバーズ料金設定はございません。

発売日: 一般2月15日(土) メンバーズ2月8日(土)
 ※メンバーズの方には別途ご案内するプレオーダー(抽選)があります。

村上春樹×蜷川幸雄 『海辺のカフカ』が満を持して蘇る!

のか。図書館司書の大島役には、テレビや映画を中心に活躍中の藤木直人。蜷川作品に初登場とあって、作品に新たな風を持ち込んでくれるに違いない。また、蜷川が信頼を寄せる若手実力派女優の鈴木杏、初演に引き続き出演が決まった柿澤勇人、高橋努、鳥山昌克、木場勝己と、

確かな演技力と存在感を持った俳優陣が舞台を支える盤石の構えだ。そして、初演で柳楽優弥が演じた注目のカフカ役は、オーディションで見出された新たな才能が引き継ぐとあってこれも期待が高まる。村上と蜷川は、ともに世界で活躍する二人とあって海外からの注目も高く、早くも2015年にロンドン、ニューヨークで上演することが決定している。新キャストを迎えて最強の布陣で蘇る『海辺のカフカ』、2014年、必見の舞台だ。

カフカ役、近日中にホームページ等で発表!

今年も埼玉に熱狂の嵐が吹き荒れる



パワー全開
コンドルズ
埼玉公演新作!

Photo © HARU

埼玉のダンス公演の常連、学ラン姿の男性のみのダンス・カンパニー、コンドルズが8度目の登場。コンドルズのステージといえば、爆音のロックが鳴り響く中での熱いダンス、アーティスティックな才能を持つ彼らが徐々に繰り出す映像や影絵、ゆるい小ネタに溢れたコントやシュールな人形劇、肩の力の抜けた生演奏。コンドルズは自分たちが楽しいと思うあらゆることに貪欲に突き進む。「見て見て！これ、面白いでしょ！」とステージ上で戯れる彼らの無邪気さに、いつのまにか観客もその輪に加わって一緒に遊んでしまう。そんな求心力がコンドルズにはある。

そのコンドルズは、2008年から毎年一人のペースで新しいメンバーが加わってきたことにより、新たな顔をのぞかせるようになった。それまでも、96年のコンドルズ立ち上げから数年の間に参戦した気心の知れたメンバーが縦横無尽にステージを駆け回り、停滞することなく年々レベルアップし続ける彼らに驚かされてきた。ダンス要員ではなかったメン

バーがいつの間にか結構踊れるようになっていたり、気恥ずかしさから解放されて、コントでとことんおバカになれるようになったり。最近はそのこに、年齢がひと回りも違う若いメンバーが入ることによって、世代間のギャップが生み出す面白さが加わったのだ。若くて体力のあるメンバーが加わったことで、ダンス・シーンは更にクールに激しく、メンバーそれぞれの個性と持ち味が前面に出るコントも、古参メンバーの醸し出す雰囲気とは全く違う空気をまとったメンバーが

参加することで、幅も奥行きも出たことは間違いない。

コンドルズと一緒にステージを楽しんだ直後の興奮と爽快感には中毒性があり、何度も劇場に足を運びリピーターも多い。主宰の近藤良平は、コンドルズの創作活動を、「新しくて不思議なブラモデルを、みんなで一生懸命つくってる感じ」と例える。ユーモラスで少しリリカル、永遠の少年の心意気が創り出す風変わりなブラモデルを、今年もみんなで楽しく見ようではないか。

公演概要

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念

コンドルズ 埼玉公演2014新作

日 時：5月24日（土）開演14:00 / 19:00、25日（日）開演15:00
※演出の都合により、開演時間に遅れますと入場をお待ちいただく場合がございます。予めご了承ください。

会 場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
構成・映像・振付：近藤良平
出 演：コンドルズ

チケット（税込）

一 般：前売 S席4,500円、A席3,500円 / 当日 S席5,000円、A席4,000円
学 生：前売 S席3,000円、A席2,000円 / 当日 S席3,500円、A席2,500円
メンバーズ：前売 S席4,100円、A席3,200円 / 当日 S席4,500円、A席3,600円
※A席（サイドバルコニー）は舞台の一部が見切れます。予めご了承ください。
発 売 日：一般2月16日（日） メンバーズ2月1日（土）

大人も子どもも虜にするアクロバットとダンスのファンタジー
フィリップ・ドゥクフレ
『パノラマ』
遂に来日!



© Cie DCA

ダンス、アクロバット、トリッキーな影絵などが混在する摩訶不思議な饗宴。1994年の初来日公演以来、日本の観客を虜にしてきたフィリップ・ドゥクフレとカンパニー DCA が8年ぶりに日本にやって来る！

1961年パリ生まれのドゥクフレは世界で最も人気の高い振付家の一人。サーカス学校でマイムやアクロバットを学んだドゥクフレは、83年に自身のダンス・カンパニー DCA を設立。彼のエンターテイナーとしてのマルチな才能はダンス以外の分野でも発揮される。イギリスのロック・バンド、ニュー・オーダーのミュージックビデオ、ポラロイド社やディオールなどのCM、そして92年のアルベルビル冬季オリンピックの開・閉会式を31歳の若さで手掛け、サーカスとダンスが融合した奇想天外な演出は観客の度肝を抜き、彼の名は一躍世界に知ら

れることとなった。最近でいえば、映画監督フレデリック・ワイズマンがパリの老舗ナイトクラブの舞台裏を追ったドキュメンタリー映画『クレイジー・ホース・パリ 夜の宝石たち』をご覧になったのだろうか。ここで取り上げられていたのが、ドゥクフレの演出・振付によるショー『DESIRE』。衣裳やライティングも含めた視覚的イメージの美しさに目を奪われた方も多いただろう。このキャリアからもわかるように、ドゥクフレの興味の対象は広く、多種多様な表現手段がクロスする作品たちは、まさに一大スペクタクルだ。

今回の来日公演では、カンパニー設立からこれまでの間に発表された作品にドゥクフレが再び取り組んだ『パノラマ』を上演する。『コデックス』（86年）、『ブ

ティット・ピエス・モンテ』（93年）、『シャザム!』（98年）といった代表作をはじめ、初演以来一度も再演されていないパニョレ国際振付コンクール入賞作品『バーグ・カフェ』（83年）や映像作品『ジャンプ』（84年）など、代表作のハイライトが次々と展開する本作は、彼の創作活動を一望できる絶好の機会だ。しかし、『パノラマ』はこれら作品の再演というよりも、様々な作品が交錯するヴァリエーションといった方がよいかもれない。例えば、『イリス』（2003年）で現れた影の映像が、『トリトン』（90年）の抜粋シーンに出現し、さらにダンサーが身にまとっているのは『シャザム!』からインスパイアされた衣裳、という具合だ。ドゥクフレの舞台を観続けてきた人にとっても、新鮮な気持ちで再び彼の作品に触れられるのは嬉しい限りだ。ドゥクフレの舞台はいつも夢を見ているかのような錯覚を起こさせる。鏡や映像を巧みに用いた虚像と実像が戯れる万華鏡の世界。突飛なアイデアに満ちたユーモアたっぷりのマジカルワールド。子どもも大人も一緒に楽しめる超一流のサーカス・ダンスをお見逃しなさいよう！

公演概要

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念

フィリップ・ドゥクフレ カンパニー DCA 『PANORAMA ーパノラマ』

日 時：6月13日（金）開演19:30、14日（土）・15日（日）開演15:00
（上演時間／約85分・途中休憩なし）

※演出の都合により、開演時間に遅れますとお席への案内ができない場合がございます。予めご了承ください。

会 場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
演出・振付：フィリップ・ドゥクフレ
出 演：カンパニー DCA

チケット（税込）

一 般：S席5,000円 / A席3,500円
学 生（高校生以上）：S席3,000円 / A席2,000円
子ども（4歳～中学生）：S席1,500円 / A席1,000円
メンバーズ：S席4,500円 / A席3,200円
※A席（サイドバルコニー・2階席の一部）は舞台の一部が見切れます。予めご了承ください。
発 売 日：一般3月1日（土） メンバーズ2月22日（土）



Photo © Christian Berthelot

彩の国2014 ラインナップ発表!

1994年のオープンから20周年を迎えた彩の国さいたま芸術劇場。記念の年を彩る充実のラインナップを、埼玉会館・熊谷会館での公演もあわせて一挙ご紹介。どうぞご期待ください。

2 february 3 march 4 april 5 may 6 june 7 july 8 august 9 september 10 october 11 november 12 december 2015年 1 january

PLAY

DANCE

MUSIC

埼玉会館

熊谷会館

2/15 ~ 2/27
さいたまネクスト・シアター第5回公演
『2014年・蒼白の少年少女たちによる「カリギュラ」』
原作:アルベール・カミュ
翻訳:岩切正一郎
演出:蛭川幸雄



第4回公演『2013年・蒼白の少年少女たちによる「オイディプス王」』 Photo ©宮川舞子

詳細は
⇒ P.3
~7

4/29 ~ 5/15
『わたしを離さないで』
原作:カズオ・イシグロ
演出:蛭川幸雄
脚本:倉持裕



4/19
彩の国さいたま寄席
四季彩亭
~立川志らくと
精鋭若手落語会

詳細は
⇒ P.21

6/1 ~ 6/7
『海辺のカフカ』
原作:村上春樹
脚本:フランク・ギャラティ
演出:蛭川幸雄

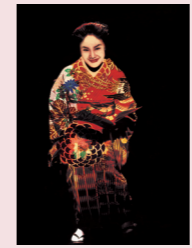


詳細は
⇒ P.9

7月
彩の国さいたま寄席
四季彩亭
~平成25年度彩の国
落語大賞受賞者の会(予定)

8月
ニナガワ・シェイクスピア・
レジェンド第1弾
『ロミオとジュリエット』
演出:蛭川幸雄
作:W.シェイクスピア
翻訳:松岡和子

9/30 ~ 10/1
白石加代子「百物語」シリーズ
第三十二夜 第99話ファイナル公演
98話 三島由紀夫「橋づくし」
99話 泉鏡花「天守物語」
構成・演出:鴨下信一



10月
彩の国シェイクスピア・
シリーズ第29弾
『ジュリアス・シーザー』
演出:蛭川幸雄
作:W.シェイクスピア
翻訳:松岡和子

10月
彩の国さいたま寄席
四季彩亭

1月
劇場体験ツアー(予定)

1月
ニナガワ・シェイクスピア・
レジェンド第2弾(予定)

1月
彩の国さいたま寄席
四季彩亭

3/20 ~ 3/23
ピナ・パウシュ
ヴッパータール舞踊団
『KONTAKTHOF
—コンタクトホーフ』



Photo © Oliver Look

詳細は
⇒ P.22

5/24 ~ 5/25
コンドルズ 埼玉公演
2014新作



埼玉公演 2013「アポロ」 Photo © HARU

詳細は
⇒ P.10

6/13 ~ 6/15
フィリップ・ドゥクフレ
『PANORAMA
—パノラマ』

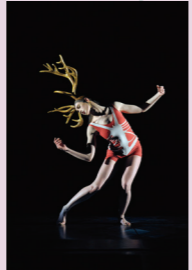


Photo © Christian Berthelot

詳細は
⇒ P.11

8/28 ~ 8/31
さいたまゴールド・シアター
×瀬山亜津咲(ピナ・パウシュ ヴッパータール舞踊団)



【ザ・ファクトリー3】ワーク・イン・プログレス (2013年)より Photo © Matron

11/8 ~ 11/9
バンジャマン・ミルビエ L.A. Dance Project



Photo © Laurent Philippe

Photo © T.Okura

3/15
ピアノ・エトワール・シリーズ
アンコール! Vol.2
北村朋幹



詳細は
⇒ P.14
~15

4/19
バッハ・
コレギウム・ジャパン
バッハ《マタイ受難曲》



Photo © Marco Borggreve

詳細は
⇒ P.16
~17

5/17
光の庭プロムナード・
コンサート 第67回
宇内千晴(オルガン)&
西 由紀子(ソプラノ)

5/24
「次代へ伝えたい名曲」第1回
堤 剛
チェロ・リサイタル



Photo © 鍋島徳恭

詳細は
⇒ P.21

Photo © Decca/Ben Ealovega
6/8
ピアノ・エトワール・シリーズ
Vol.24
ペフゾド・アブドゥライモフ

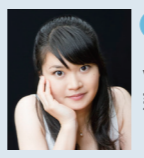


Photo © Akira Muto

詳細は
⇒ P.21

6/22
ピアノ・エトワール・シリーズ
Vol.25
萩原麻未

6/28
光の庭プロムナード・コンサート 第68回
モニカ・メルツォーヴァ(オルガン)

8/30
光の庭プロムナード・
コンサート 第69回
長谷川美保(オルガン)&
寺本圭佑(アイリッシュハーブ)



Photo © Marco Borggreve

詳細は
⇒ P.22

9/13
ピアノ・エトワール・シリーズ
アンコール! Vol.3
小菅 優

9/20
光の庭プロムナード・
コンサート 第70回
松居直美(オルガン)&
北川森央(フルート)

©Felix Broede/DG
10/4
ピエール
ニロラン・エマール
バッハ《平均律クラヴィーア
曲集第1巻》全曲演奏会



Photo © 青柳聡

11/3
光の庭プロムナード・
コンサート 第71回
~開館20周年
記念スペシャル~
廣澤麻美(オルガン)
&近藤良平(ダンス)



Photo © Kiyotaka Saito

12/20
光の庭プロムナード・
コンサート 第72回
~トワイライト・
スペシャル~
梅千野安未(オルガン)&
首藤玲奈(ソプラノ)



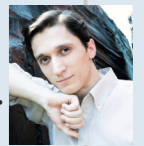
11/8
「次代へ伝えたい名曲」第2回
仲道郁代
ピアノ・リサイタル

1/10
「次代へ伝えたい名曲」第3回
堀米ゆず子
ヴァイオリン・リサイタル



詳細は
⇒ P.22

1/17
ピアノ・エトワール・
シリーズ Vol.26
アレクサンダー・
ロマノフスキー



1/31
光の庭プロムナード・コンサート
第73回
大塚直哉(オルガン)&
荒木優子(バロック・ヴァイオリン)

4/25
埼玉会館ランチタイム・
コンサート第25回
NHK交響楽団
12人のチェリストたち

詳細は
⇒ P.22

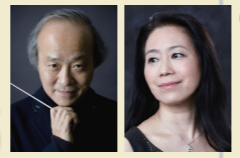


Photo © Martin Richardson (左)
Photo © Kazuo Matsuura (右)

7/5
NHK交響楽団
尾高忠明(指揮)
小山実稚恵(ピアノ)

7/27
埼玉会館ファミリー・クラシック
夏休みオーケストラ!

7/1
松竹大歌舞伎

8/3
熊谷会館ファミリー・クラシック
夏休みオーケストラ!



©Orchestra Ensemble Kanazawa (左)
Photo © Tetsuro Takai (右)

11/29
新日本フィルハーモニー
交響楽団
井上道義(指揮)
竹澤恭子(ヴァイオリン)

12/11
埼玉会館ランチタイム・
コンサート第27回
渡辺克也
オーボエ・リサイタル



Photo © 尾形正茂

1/24
新春狂言 万作・萬斎の世界



北村朋幹、22歳の挑戦

10代より活躍し、その成長が大いに期待されるピアニスト北村朋幹が5年ぶりに登場。現在、ベルリン芸術大学で学ぶ北村が、「今だからこそ向かい合うべき」というベートーヴェンの「ハンマークラヴィーア・ソナタ」を中心に据えたプログラムに込めた想いとは――。

取材・文◎飯田有抄（音楽ライター）

ピアノ音楽史上の大作に挑む

「いま取り組みたいこと、取り組むべきことが、だんだんと明確になってきました。年齢や知識を重ねることで理想は高くなりますが、一方で自分の未熟さも感じるために、ピアノを弾くことが昔ほど簡単ではなくなったと思う自分もいます。しかし限界を1ミリでも上げるべく、日々音楽と向き合い続ける『挑戦』が課せられた人生は、とても価値があると信じています」

彩の国さいたま芸術劇場では2006年の「ピアニスト100」、2008年の「ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.7」で聴衆を湧かせてきた北村朋幹。バッハ、モーツァルト、リスト、ショパン、シューマン、グリーグ、ベルク……幅広いレパートリーを高い集中力で聴かせた北村が、きたる3月15日の「アンコール！」公演でも個性的なプログラミングを披露する。「演奏会全体で一つの世界観を表現できるプログラムは、作品の本質に近づける気がします。今回のコンセプトの中心に据

えたのは、最後に演奏するベートーヴェンのソナタ第29番『ハンマークラヴィーア』です。この作品の恐ろしいほどの生命力には圧倒されます。人が生きていくことの厳しさ、その苦悩があるからこそ、生の喜びがある。それを示してくれる作品で、どこまでも意味深で史上まれに見る大作（問題作）であり、その理解に至るには気が遠くなるほど長い年月が掛かることでしょう。しかし、体力的な意味でも若い今だからこそ向き合うべきと覚悟を決め、この曲に感じられるものを今回

のコンサートの緩やかなテーマとしました」

「ハンマークラヴィーア」は複雑なフーガの終楽章で幕を閉じるが、コンサートの幕開けにも北村はフーガを選んだ。シューマンの《4つのフーガ》である。「ロマン派の作曲家シューマンが、非常に堅牢なバロック的とも言える書法で書いた作品です。しかしそれが実際に音にされると、シューマンでしかありえない、常に夢みがちで、内的な世界に潜り込んでいってしまうような……ほとんど危険といっても差し支えない陶酔感をもって現れます。このようなシューマンの作品に触れるたびに『作曲家が作品を書く意味とは何か?』と考えさせられます。果たして音楽作品とは、パーソナルなものなのか、誰かに向けられたものなのか? その疑問こそ、後半の『ハンマークラヴィーア』に取り組む上での難しい問題でもあります」

煌めく感性が紡ぐ音楽世界

続いて取り上げるのはイタリアの作曲家ベリオの《セクエンツァ IV》である。跳躍や音色の変化が激しい技巧的な作品だ。「この作品と『ハンマークラヴィーア』の共通点は、楽器と奏者（奏法）の限界に挑戦している点です。『現代音楽』というイメージを持たれる方が多いかもしれませんが、実はもう50年も前の作品です。ピアニストが弦を直接はじいたり、ボディを叩くような曲も当たり前にかかれるようになった現在、88鍵と3種のペダルの



「ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.7 北村朋幹」（2008年）より Photo◎加藤英弘

みから創りだされる多種多様な響きはとても新鮮でありながら、どこか懐かしい手触りを感じる瞬間すらあります。そこには、オーガニックといいますが、『自然』そのものの音があり、演奏しているとまるで架空の森の中を彷徨っているような感覚に捉われます」

もう一曲、北村が特別な想いを込めて取り上げる作品が、神秘主義を標榜した作曲家スクリャービンのソナタ第10番である。「太陽の口づけである昆虫」をトリルで表現した作品だ。「リサイタルで『ハンマークラヴィーア』を弾くなら、絶対にこの作品とカップリングしたいと思っていました。どちらにも非常に眩しい強烈な光のようなものを無我夢中で目指す本能的な生命力を感じるからです。僕自身は『神秘主義』のような

思想には残念ながら疎く（音楽に携わる者として『時間』には神秘的なものを感じますが）、また昆虫も大の苦手なのですが、作曲家が各々の思想に基づいて遺してくれた作品には、宗教や思想の垣根を越えて感じ取れるものがあると信じています。もしかすると作曲という行為とは、なにか現実世界に無い場所を創ることなのかもしれません」

2011年よりベルリン芸術大学で学んでいる。ヨーロッパは「自分に正直に生きることが出来る場所。好きなだけ読書をしたり、ふらりと旅行に出ることも。魔法としか思えないほど素晴らしい演奏を聴くこともある」と語る。キラリと光る知性、感性、テクニックにますます磨きをかけている北村。そんな彼の「挑戦」を目の当たりにしたい。

公演概要

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念

ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.2 北村朋幹

日 時：3月15日(土) 開演14:00
 会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
 曲目：シューマン／4つのフーガ 作品72
 ベリオ／セクエンツァ IV
 スクリャービン／ソナタ第10番 作品70
 ベートーヴェン／ソナタ第29番 変ロ長調 作品106「ハンマークラヴィーア」

チケット(税込) 好評発売中

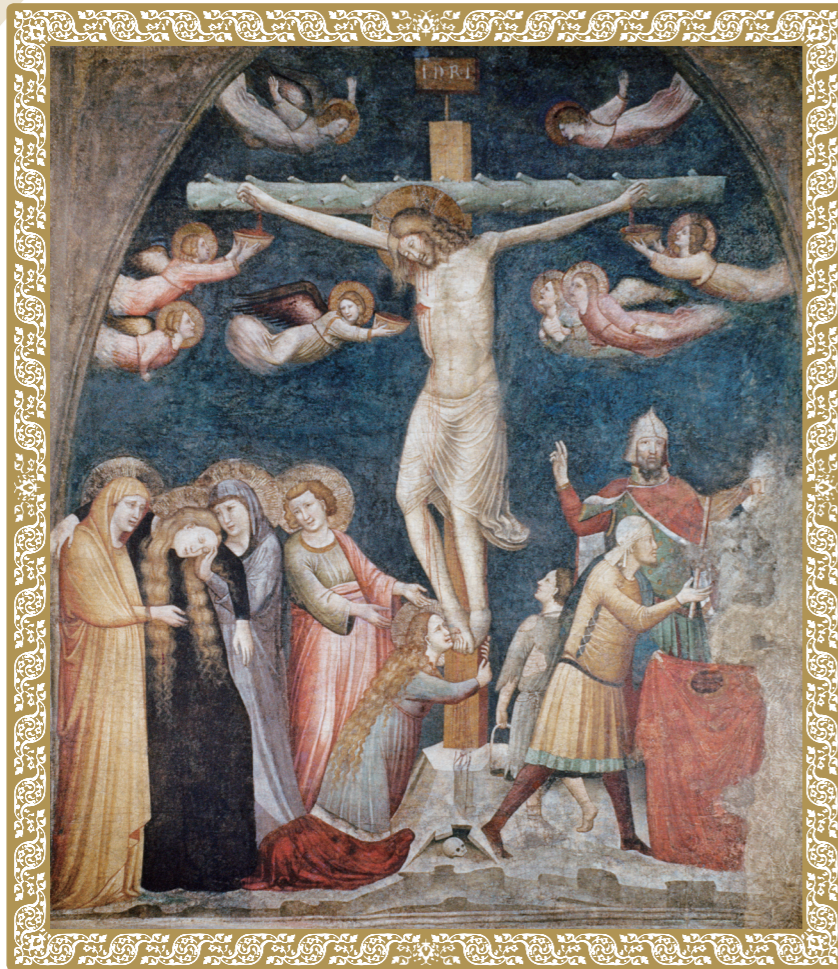
一般：正面席3,500円／バルコニー席2,500円(学生1,000円)

メンバーズ：正面席3,200円



北村朋幹 (きたむら・ともき)

1991年生まれ。2005年第3回東京音楽コンクール第1位・審査員大賞（全部門共通）受賞以来、国内外でのリサイタル、オーケストラとの共演、日本でのテレビ・ラジオへの出演を重ねる。11年には待望のソロ・デビューCDをリリース。現在、ベルリン芸術大学在学中。



© Bettmann/CORBIS

キリストの受難を音楽で描いた、 バッハの《マタイ受難曲》

日本が世界に誇る古楽アンサンブル、バッハ・コレギウム・ジャパンが、4月に彩の国で《マタイ受難曲》を演奏する。キリストの受難を描いた宗教音楽というと、日本人には難しいのではと思うかもしれないが、敬遠する必要は全くない。そこで出会うのは、宗教や言葉を超越感動を呼び起こす普遍的なドラマなのだ。

文◎オヤマダアツシ（ライター）

クラシック音楽の金字塔

「主よ許してください。彼らは自分がなにをしているのかわからないのです」

磔にされた十字架の上から、嘲笑する兵士たちを見下ろしてつぶやくイエス。

とまどう兵士たち、崩れ落ちて号泣するマグダラのマリア、イエスの叫び。

「神よ、わが神よ、どうして私を見捨てるのですか」

なすすべもなく絶望して立ちつくす弟子たち、イエスの姿を見ようと顔を上げるマリア、

そしてイエスの最後の言葉。

「主よ、あなたにゆだねます、私の魂を」

静かな感動を呼ぶこの場面は、イエス・キリストが最後を迎える時。言うまでもなく新約聖書の一節であり、クラシック音楽シーンにおいても中世から現代に至るまで多くの作曲家たちが、主に「受難曲」という形で描いてきた。しかし最初に筆者の心を捉えたのは、J. S. バッハの《マタイ受難曲》でもハイドンの《十字架上のキリストの最後の7つの言葉》でもなく、ティム・ライス&アンドルー・ロ

イド・ウェッパーによるロック・オペラ『ジーザス・クライスト・スーパースター』である。イエスと弟子たち、彼を敵視した人々などを描く「最後の7日間」の物語であり、現在もお世界中で上演されている名作だ。

高校生の頃だったろうか。厚みがあり、1ページに細かな文字が凝縮された岩波文庫版の新約聖書にたじろいだ筆者は、しばらくその「物語」に接することはなく、「『第9』と並ぶクラシック音楽の金字塔」と絶賛されていた《マタイ受難曲》も、題名を知ることだけで満足していた。なにより高校生にとって4枚組

のレコード・ボックスは高嶺の花であり、約3時間を要する大曲は想像のつかない世界だったのだ。映画『ジーザス・クライスト・スーパースター』はそうした筆者にとって、まさに“福音(Evangelion)”だったのである。そして当然ながら、これをきっかけとして《マタイ受難曲》という高峰を征する登山道を見出し、頂上へと歩み始めることになった。

神々しいまでの存在感を示し、おそらくすべてのクラシック音楽ガイドブックが「これを聴かずしてクラシック音楽を語るることなかれ」と推薦しているであろう偉大な作品、それがJ. S. バッハの《マタイ受難曲》である。「受難曲」という難しそうな題名を装っているため、かつての筆者のように圧倒され、そびえ立つ高峰の前に立ちつくしてしまう人が多いかもしれない。しかしこの作品は、オペラや演劇のように登場人物たちが生き生きと描かれたドラマだ。そこにはイエスをはじめとするキャラクターたちの生きざまや感情の揺れ、私たちが共有できる悩みや解決への糸口、思わずノットにメモしたくなるような名言・格言などがあふれている。また、登山道のところどころで美しい風景に出会えるのと同様、感動を呼ぶ場面と音楽が随所で待っていることもお伝えしたい。

バッハの音楽が繰り広げる 人間ドラマ

音楽が始まるとすぐ、これから描かれる悲劇について切々と歌うコーラスが、私たちの前にある扉を開いて誘ってくれるだろう。前半(第1部)はイエスが自らの最後を予感するところから始まり、裏切り者の出現を口にする最後の晩餐、ペテロの前に「あなたは今夜私を三度拒むだろう」と予言するオリブ山での場面、苦悩するイエスをよそに弟子たちが眠ってしまうゲッセマネの場面、誘惑に負けたユダの裏切り、そしてイエスが捕らえられるまでが描かれていく。途中で道に迷ってしまうのではないかと心配する必要はない。ストーリーは福音史家(エヴァンゲリスト)と呼ばれる語り手によって導かれ、常にその場面やキャラクターたちの心情・行動が示されるのだから。物語が少し進むと随所でコーラル(賛美歌)が歌われ、私たちに休息と思索の

時間をプレゼントしてくれる。それはまるで険しい登山道を抜けた先に、眺望の良い丘や清廉な滝などが現れるような趣だ。しかしその休息は、決して平和ではない。

この第1部に没入したあなたは、もう何も心配することなく頂上までたどり着き、もしかすると最後には落涙していることだろう。後半(第2部)で描かれるのはイエスの裁判からユダの自殺、死刑判決、茨の冠、刑場となるゴルゴタの丘へ引かれていくイエス、そして魂が主のもとに導かれる最後(音楽は埋葬までが歌われる)。長いドラマの中には、感動的な歌(アリア)やコーラルがいくつもあつた。それもまた、各場面と共にあなたの心を打つはずだ。

最後に、もう一度お伝えする。《マタイ受難曲》は決して長大かつ難解な作品ではない。(信仰の有無にかかわらず)イエス・キリストという主人公の生きざまに共感できるドラマであり、J. S. バッハの音楽が心へと響く感動作である、と。



バッハ・コレギウム・ジャパンを率いる指揮の鈴木雅明
Photo © Marco Borggreve



当劇場で4年ぶりにバッハ・コレギウム・ジャパンが《マタイ受難曲》を演奏する Photo ©加藤英弘

公演概要

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念 バッハ・コレギウム・ジャパン バッハ《マタイ受難曲》

日 時：4月19日(土) 開演16:00
会 場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
出 演：鈴木雅明(指揮)、エヴァンゲリスト(福音史家)：ゲルト・テュルク(テノール)、
イエス：ペーター・コーイ(バス)、ハンナ・モリソン、松井亜希(ソプラノ)、
クリント・ファン・デア・リンデ、青木洋也(アルト)、櫻田亮(テノール)、
浦野智行(バス)、バッハ・コレギウム・ジャパン(合唱&管弦楽)

チケット(税込) 好評発売中
一 般：正面席9,000円 メンバーズ：正面席8,100円
※バルコニー席、学生席は予定枚数終了しました。

PLAY 11月22日～25日

【ザ・ファクトリー4】 さいたまネクスト・シアター
『ヴォルフガング・ボルヒェルトの作品からの九章
一詩・評論・小説・戯曲より』

劇場内のあらゆる場所に創造の可能性を見出す【ザ・ファクトリー】第4弾は、大稽古場が主な上演場所。若き日の蜷川幸雄が同世代の仲間と共に創りあげた原点ともいえる作品に、ネクスト・シアターが挑んだ。稽古場の廊下、薄暗がりの彼方から“兵隊さん”たちが足取りも重くかけろうのように行進してくる導入に始まり、果てしのない戦場に疲弊しきつた若い肉体は、生きているのに亡霊のごとく死んでいる。絶望に沈む者、生に執着する者、若い兵隊に狂おしく惹かれる娘。若者の生を搾取して肥え太る隊長一家は戦争の不条理の鏡だ。作者ボルヒェルトの化身とも思える青年（内田健司）を中心に、正気と狂気のはざまで揺れ惑う若者たちの叫びが生々しく胸に突き刺さった。

Photo ©宮川舞子



MUSIC 11月10日

ヴェルディ生誕200年記念
ヴェルディ・ガラ・コンサート

Photo ©加藤英弘

ヴェルディの傑作オペラから選りすぐりのアリアをプログラミングした密度の高いガラ・コンサート。横山恵子、清水華澄、福井敬、福島明也という日本を代表する歌手が、谷池重袖子のピアノで、ヴェルディ・オペラのドラマ性を情感豊かに歌い上げた。歌手自身によるMCや客席から登場するサプライズ演出も客席を楽しませ、人間の声もつ美しさをあますことなく堪能できた。



MUSIC 12月1日

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.23
大崎結真

フランス近現代の作品を得意とする大崎の魅力がいかに発揮されたオール・フランス・プログラム。ドビュッシー、ラヴェルでは音の陰影を緻密に表現し、メシアンでは色彩感豊かな響きが際立っていた。デュティユーはスケールの大きい、完成度の高い演奏で、彼女の表現力の深さと豊かさに今後の活躍が期待される演奏会となった。

Photo ©加藤英弘



MUSIC 12月13日

埼玉会館ランチタイム・コンサート
第24回 ぎりく・ハンドベルアンサンブル

ハンドベル界のトップ奏者、大坪泰子率いるアンサンブルが埼玉会館に初登場。クリスマスにぴったりのプログラムが組まれた。また、海外ツアーで日本の曲を演奏することの多いアンサンブルならではの、日本の民謡《ソーラン節》も情熱的な演奏で聴かせてくれた。華やかで温かみのある響きを堪能すると同時に、ハンドベルの表情力豊かな音色に驚かされたコンサートだった。

Photo ©加藤英弘



MUSIC 11月3日

イザベル・ファウスト
バッハ無伴奏ヴァイオリン作品全曲演奏会

現代を代表するヴァイオリニストの一人、イザベル・ファウストによる円熟のバッハ。作曲家のメッセージをストイックに追求しながら、清新で自然体の演奏。聴衆は温もりある音色に身も心も委ね、ファウストとともにバッハの音楽世界の深淵に迫る。最後の〈シャコンヌ〉では会場の集中も最高潮に達し、渾身の演奏を聴かせたファウスト。最後の音を弾き終えた後の長い静寂が、この長い旅路の充実ぶりを物語っていた。

Photo ©加藤英弘



DANCE 11月9日

マチルド・モニエ
『ピュディック・アシッド』『エクスタシス』

80年代のフランスダンス・シーンを牽引した振付家の一人、マチルド・モニエ。2作品とも一組の男女によるデュエットで、コンパクトな作品ながらも、舞台空間も衣裳もスタイリッシュで、時折見せる挑発的な仕草、ユーモラスな動きに、若き振付家モニエの反骨精神が垣間見える。初演から30年近く経つてなお、若者の息吹を感じさせた。

Photo ©Arnold Groeschel



★特に記載のないものは彩の国さいたま芸術劇場で開催。

MUSIC 12月7日

バッハ・コレギウム・ジャパン
モーツァルト《レクイエム》

バッハ演奏を中心とした鈴木雅明率いる古楽アンサンブルが、2006年に初めて取り組んだモーツァルトの《レクイエム》。あの名演が再び聴けるとあって会場は満員の聴衆で埋め尽くされた。今回は鈴木優人の補筆校訂版。雄弁に聴かせるソリストと合唱、それを支えるオーケストラの切れのある演奏。鈴木指揮のもと、この3者が見事なまでに一体化した、生命力みなぎる演奏だった。

Photo ©加藤英弘



MUSIC 12月17日

ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.1
ラファウ・ブレハッチ

待ちに待ったブレハッチのリサイタル。前半は瑞々しく流れるような美音を響かせたモーツァルトに始まり、ベートーヴェンは躍動感にあふれた心揺さぶる力強い演奏。後半は垂涎のオール・ショパン。ブレハッチの内から湧き出る絶妙なりズム、コントロール抜群の多彩な音色、大仰さのひとかけらもない自然な、歌っているかのように流れるショパンに、満場の聴衆は大いに酔いしれた。



PLAY		DANCE		MUSIC		CINEMA & EVENT	
1	january	開演時間	開演時間	1	january	1	1
15	水	休館日(熊谷会館)				15	水
16	木					16	木
17	金					17	金
18	土					18	土
19	日					19	日
20	月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)				20	月
21	火					21	火
22	水	休館日(埼玉会館)				22	水
23	木					23	木
24	金					24	金
25	土					25	土
26	日	26 彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ~春風亭昇太 新春特選落語会 14:00				26	日
27	月		休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			27	月
28	火					28	火
29	水					29	水
30	木					30	木
31	金					31	金

PLAY		DANCE		MUSIC		CINEMA & EVENT	
2	february	開演時間	開演時間	2	february	2	2
1	土					1	土
2	日					2	日
3	月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)				3	月
4	火					4	火
5	水					5	水
6	木					6	木
7	金					7	金
8	土					8	土
9	日					9	日
10	月					10	月
11	火					11	火
12	水	休館日(埼玉会館)				12	水
13	木					13	木
14	金					14	金
15	土	15 さいたまネクスト・シアター 第5回公演 18:30				15	土
16	日					16	日
17	月	17 「2014年・蒼白の少年少女たちによる『カリキュラ』」 13:00	休館日(彩の国さいたま芸術劇場、熊谷会館)			17	月
18	火					18	火
19	水					19	水
20	木					20	木
21	金					21	金
22	土					22	土
23	日					23	日
24	月					24	月
25	火					25	火
26	水					26	水
27	木					27	木
28	金					28	金

PLAY		DANCE		MUSIC		CINEMA & EVENT	
3	march	開演時間	開演時間	3	march	3	3
1	土					1	土
2	日					2	日
3	月					3	月
4	火					4	火
5	水	休館日(埼玉会館)				5	水
6	木					6	木
7	金					7	金
8	土					8	土
9	日					9	日
10	月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)				10	月
11	火					11	火
12	水					12	水
13	木					13	木
14	金					14	金
15	土					15	土
16	日					16	日
17	月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場、熊谷会館)				17	月
18	火					18	火
19	水	休館日(埼玉会館)				19	水
20	木					20	木
21	金					21	金
22	土					22	土
23	日					23	日
24	月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)				24	月
25	火					25	火
26	水					26	水
27	木					27	木
28	金					28	金
29	土					29	土
30	日					30	日
31	月					31	月

PLAY

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念 『わたしを離さないで』

チケット発売日 一般：1月18日(土) ※メンバーズ発売中

詳細は ⇒ P.8

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念 彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ~立川志らくと精鋭若手落語会

春の四季彩亭は立川志らくが登場。立川一門の精鋭らとにぎやかな落語会を繰り広げます。どうぞお楽しみに。

Photo ©加藤英弘

チケット発売日 一般：1月26日(日) メンバーズ：1月25日(土)

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念 『海辺のカフカ』

チケット発売日 一般：2月15日(土) メンバーズ：2月8日(土) ※メンバーズプレオーダー(抽選)があります

日時：4月19日(土) 開演14:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
出演：立川志らく、立川談笑 ほか
チケット(税込)
一般3,000円 メンバーズ2,700円
ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者) 2,000円

DANCE

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念 コンドルズ 埼玉公演2014新作

チケット発売日 一般：2月16日(日) メンバーズ：2月1日(土)

詳細は ⇒ P.10

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念 フィリップ・ドゥクフレ 『PANORAMA -パノラマ』

チケット発売日 一般：3月1日(土) メンバーズ：2月22日(土)

詳細は ⇒ P.11

MUSIC

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念 彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画 「次代へ伝えたい名曲」第1回 堤剛 チェロ・リサイタル

現代日本を代表する音楽家たちが「次代へ受け渡したい名曲」を奏でる新シリーズ。初回は「これぞチェロのレパートリーを代表する作品群」というプログラムを、堤剛の演奏で。

Photo ©鍋島恭彦

チケット発売日 一般：1月18日(土) ※メンバーズ発売中

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念 ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.24 ベフゾド・アブドゥライモフ Vol.25 萩原麻未

Photo ©Decca/Ben Ealovega Photo ©Akira Muto

チケット発売日 【1回券】一般：2月1日(土) メンバーズ：1月25日(土)

日時・曲目：【Vol.24】6月8日(日) 開演15:00 ショパン/幻想曲 ほか 【Vol.25】6月22日(日) 開演15:00 ラヴェル/高雅で感傷的なワルツ ほか

会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
チケット(税込)
一般：正面席3,500円/バルコニー席2,500円(学生1,000円)
メンバーズ：正面席3,200円

※4公演セット券(Vol.24~26、アンコール! Vol.3)発売中。詳細はP.22にて。
※以降の1回券発売日
【Vol.26】
一般7月26日(土) メンバーズ7月19日(土)
【アンコール! Vol.3】
一般4月19日(土) メンバーズ4月12日(土)

チケット発売日 一般：1月18日(土) ※メンバーズ発売中

日時：5月24日(土) 開演14:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
出演：堤剛(チェロ)、上田晴子(ピアノ)
曲目：ベートーヴェン/チェロ・ソナタ 第5番 シューベルト/アルペジオオーネ・ソナタ 武満 徹/オリオン ほか

チケット(税込)
一般：正面席4,000円/バルコニー席3,000円(学生1,500円)
メンバーズ：正面席3,600円

NHK交響楽団 尾高忠明(指揮) 小山実稚恵(ピアノ)

NHK交響楽団による毎年恒例の埼玉会館公演。2014年はロシアが生んだ名作をお贈りします。

Photo © Martin Richardson Photo © Kazuo Matsuura

チケット発売日 一般：2月1日(土) メンバーズ：1月25日(土)

日時：7月5日(土) 開演16:00
※15:25~15:40 指揮者 尾高忠明氏によるプレコンサート・トークあり
会場：埼玉会館 大ホール
曲目：ラフマニノフ/ピアノ協奏曲第2番 八短調 作品18 ショスタコーヴィチ/交響曲第5番 二短調 作品47

チケット(税込)
一般：S席6,500円/A席5,500円/B席4,500円/学生B席2,000円
メンバーズ：S席6,000円/A席5,000円/B席4,000円

[チケットの購入方法について]

インターネット

「SAF オンラインチケット」で、発売初日 10:00 から公演前日 23:59 まで受付いたします。

トップページの「チケット購入」からお進みください。
【PC・スマートフォン】 <http://www.saf.or.jp/>
【携帯】 <http://www.saf.or.jp/mobile/>

電話予約

●チケットセンター

0570-064-939

10:00 ~ 19:00 (彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く)
※一部の携帯電話、PHS、IP 電話からは受付できません。

クレジットカード決済→コンビニ発券

※チケット代のほかに、【チケット一枚につき】システム利用料 135 円、店頭発券手数料 105 円が必要です。

【コンビニ支払い→コンビニ発券】

※チケット代のほかに、【お支払い1件につき】振込手数料 210 円 (代金合計 3 万円以上は 410 円) 【チケット 1 枚につき】システム利用料 135 円、店頭発券手数料 105 円が必要です。

窓口販売

下記窓口で直接購入いただけます。電話予約したチケットの引取もできます。

●彩の国さいたま芸術劇場 (10:00~19:00)
●埼玉会館 (10:00~19:00) ※休館日をお確かめの上ご来場ください。
●熊谷会館 (10:00~17:00)

現金もしくはクレジットカード決済、その場でチケットをお渡します。

※手数料はかかりません。

【窓口で支払い・引取り】 ※手数料はかかりません。

財団メンバーズのお客様は、いずれの場合も便利な「口座引落」でのお支払い、チケットは無料配送いたします。

PLAY

**彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
さいたまネクスト・シアター第5回公演
『2014年・蒼白の少年少女たち
による「カリギュラ」』**

詳細は
⇒ P.3
~7

DANCE

**【提携公演】
ダンスセッション 2014**

日時：2月2日(日) 開演13:00 / 17:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
演出：テロ・サーリネン 振付作品「MESH」、
クラシックバレエ作品「ヴィヴァルディ：四季」、
第46回埼玉全国舞踊コンクール 創作舞踊部門
第一位作品
チケット(税込)
全席自由5,000円

主催：埼玉県舞踊協会
提携：彩の国さいたま芸術劇場

【チケットのご購入・お問合せ先】
埼玉県舞踊協会 TEL. 048-882-7530
※SAFチケットセンター、3館窓口でのお取扱いはご
ざいませぬ。
※詳細は埼玉県舞踊協会ホームページ(<http://www.saitamaken-buyoukyokai.jp>)をご覧ください。

DANCE

**彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
ピナ・バウシュ
ヴッパター舞踊団
『KONTAKTHOF -コンタクトホフ』**

日時：3月20日(木) 開演19:00
21日(金・祝) 開演15:00
22日(土) 開演15:00
23日(日) 開演14:00
(上演時間/約2時間50分・休憩含む)
※演出の都合により、開演時間に遅れますとお席への
案内ができない場合がございます。予めご了承ください。
会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
演出：振付：ピナ・バウシュ
美術・衣裳：ロルフ・ボルツィク
出演：ピナ・バウシュ ヴッパター舞踊団
チケット(税込)
一般：S席10,000円/A席7,000円/B席5,000円
学生：S席7,000円/A席5,000円/B席3,000円
メンバーズ：S席9,000円/A席6,300円/B席4,500
円
※A席(サイドバルコニー・2階席の一部)・B席は舞
台の一部が見切れます。予めご了承ください。

MUSIC

**彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
ピアノ・エトワール・シリーズ
アンコール! Vol.2 北村朋幹**

詳細は
⇒ P.14
~15

**彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
バッハ・コレギウム・ジャパン
バッハ《マタイ受難曲》**

詳細は
⇒ P.16
~17

MUSIC

**埼玉会館ランチタイム・コンサート 第25回
NHK交響楽団
12人のチェリストたち**

日時：4月25日(金) 開演12:10(終演予定13:00)
会場：埼玉会館 大ホール
出演：藤森亮一、向山佳絵子、藤村俊介、桑田 歩、
銅銀久弥、山内俊輔、西山健一、三戸正秀、
村井 将、宮坂弘志、渡邊方子、市 寛也
曲目：クレンゲル/賛歌 ほか
チケット(税込)
全席指定1,000円

**彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
ピアノ・エトワール・シリーズ
Vol.24 ベフゾド・アブドゥライモフ
Vol.25 萩原麻未
Vol.26 アレクサンダー・ロマノフスキー
アンコール! Vol.3 小菅 優
【4公演セット券】**

日時・曲目：【Vol.24】6月8日(日) 開演15:00
サン＝サーンス(リスト/ホロヴィッツ編
曲)/死の舞踏 ほか
【Vol.25】6月22日(日) 開演15:00
ラヴェル/ラ・ヴァルス ほか
【Vol.26】
2015年1月17日(土) 開演15:00
ショパン/ソナタ第2番 変ロ短調 ほか
【アンコール! Vol.3】
9月13日(土) 開演15:00
ベートーヴェン/ソナタ第21番 八長調
「ヴァルトシュタイン」ほか
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
チケット(税込)
一般・メンバーズ：正面席12,500円/バルコニー席
10,500円(学生4,500円)

※各公演の1回券は順次発売します。発売日詳細はP.21
にて

THEATER BRIDGE

Information

彩の国さいたま芸術劇場シェイクスピア企画委員会を開催しました

去る12月17日彩の国さいたま芸術劇場シェイクスピア企画委員会
が開催されました。この会は河合祥一郎委員長を筆頭に演出家、翻訳
家、プロデューサーらで構成され、今後の「彩の国シェイクスピア・
シリーズ」の方針を決めていく重要な会議。約一年半ぶりの開催とな
り、まずは近作の振り返りから始まりました。男性俳優だけで演じら
れるオールメール・シリーズとしては初の悲劇で新しい路線を開拓し
た「トロイラスとクレシダ」、蜷川自ら納得のいく演出ができたと自負
する『ヘンリー四世』、歌舞伎の技法を惜しみなく披露した市川猿之助
の熟演が記憶に新しい『ヴェニス商人』の3作について意見が交わさ
れた後、議題はいよいよ来年度の作品へ。

開館20周年を飾るシリーズ第29弾『ジュリアス・シーザー』ととも
に今回明らかになったのは、2014年のシェイクスピア生誕450周年
を記念して、過去にシリーズで取り上げた戯曲を新たな作品として上

演する「ニナガワ・シェイクスピア・レジェンド」の2作品。その第1弾
では、シリーズで最初に上演され、かつ蜷川自身が初めて手掛けた
シェイクスピア作品でもある『ロミオとジュリエット』が、オールメ
ール作品として生まれ変わります。続いて第2弾の作品名が発表され、
蜷川からその構想が語られると、他の委員から驚きの声が出る場面
も。

2014年度は「彩の国シェイクスピア・シリーズ」と「ニナ
ガワ・シェイクスピア・レジェンド」の2本立てで、シェイク
スピア作品の新たな魅力をお届けします。どうぞご期待く
ださい!



委員会の様子



第26弾「トロイラスとクレシダ」Photo ©渡部孝弘



第27弾「ヘンリー四世」Photo ©渡部孝弘



第28弾「ヴェニス商人」Photo ©渡部孝弘

メンバーズに入会すると便利で楽しい特典がいっぱい!!

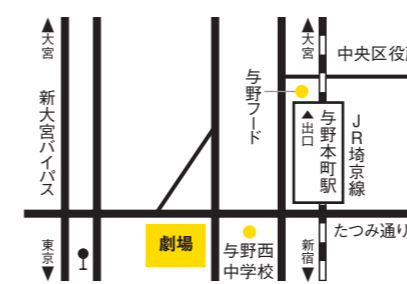
年会費2,000円

特典その1 メンバーズ料金	財団指定の公演でメンバーズ料金	特典その4 財団情報誌をお届け	公演情報満載の 「埼玉アーツシアター通信」をお送りします
特典その2 優先予約	一般発売よりも先に 人気公演のチケット販売	特典その5 チケット送料無料	チケットは 「安心のセキュリティバック(補償付き)」でお届け
特典その3 チケット購入はキャッシュレス	チケット代、年会費は 便利な口座引落し	特典その6 プレオーダー	人気の公演では優先予約に先駆けて プレオーダーを実施 ※プレオーダーは抽選

ご入会希望の方は、メンバーズ事務局 TEL: 048-858-5507 (彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く 10:00~19:00)

ACCESS MAP アクセスマップ

【彩の国さいたま芸術劇場】



【埼玉会館】



【熊谷会館】



〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰 3-15-1
電話：048-858-5500(代) ファックス：048-858-5515
●電車でのアクセス
→ JR 埼京線と野本町駅(西口)下車 徒歩7分
●バスでのアクセス
→ JR 京浜東北線北浦和駅から西武バス大久保行き
「彩の国さいたま芸術劇場入口」下車 徒歩2分

〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-1-4
電話：048-829-2471(代) ファックス：048-829-2477
●電車でのアクセス
→ JR 宇都宮線・高崎線・京浜東北線浦和駅(西口)下車
徒歩6分

〒360-0031 埼玉県熊谷市末広 3-9-2
電話：048-523-2535(代) ファックス：048-523-2536
●電車でのアクセス
→ JR 高崎線熊谷駅(北口)下車 徒歩15分

※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

彩の国シネマスタジオ LINE UP 2013.1~4

料金：大人1,000円 / 小中高生800円(当日支払いのみ)



1月24日(金)~26日(日)

会場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

『アンコール!!』

24日(金) 10:30 / 14:00 / 17:00
25日(土) 10:30 / 14:00 / 17:00
26日(日) 10:30 / 14:00

©Steel Mill (Marion Distribution) Limited
2012 All Rights Reserved.

監督・脚本：ポール・アンドリュース・ウィリアムズ
出演：テレンス・スタンプ、ヴァネッサ・レッドグレイヴ、ジェマ・アータートン ほか
(2012年/イギリス/94分)



3月7日(金)~9日(日)

会場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

『クロワッサンで朝食を』

7日(金) 10:30 / 14:00 / 17:00
8日(土) 10:30 / 14:00 / 17:00
9日(日) 10:30 / 14:00

© TS Productions - Amrion Oü - La Parti Production - 2012

監督・脚本：イルマル・ラーグ
出演：ジャンヌ・モロー、ライネ・マギ、パトリック・ピノー ほか
(2012年/フランス・エストニア・ベルギー合作/95分)



2月14日(金)~16日(日)

会場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

**『すーちゃん まいちゃん
さわ子さん』**

14日(金) 10:30 / 14:00 / 17:00
15日(土) 10:30 / 14:00 / 17:00
16日(日) 10:30 / 14:00

©2012 映画『すーちゃん まいちゃん さわ子さん』
製作委員会

監督：御法川 修
出演：柴咲コウ、真木よう子、寺島しのぶ ほか
(2012年/日本/106分)



4月11日(金)~13日(日)

会場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

『蒲田行進曲』

※上映時間は、決定次第ホームページ等
お知らせします

©1982 松竹株式会社

監督：深作欣二
出演：松坂慶子、風間杜夫、平田 満 ほか
(1982年/日本/109分)

サポーター会員

(公財) 埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、蜷川幸雄芸術監督のもと、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのが(公財) 埼玉県芸術文化振興財団サポーター会員の皆様方です。

(株) 与野フードセンター / (株) 亀屋 / 武州ガス(株) / (株) 松本商会 / (有) 香山壽夫建築研究所 / 埼玉新聞社 / テレビ埼玉ミュージック / 埼玉りそな銀行
(株) パシフィックアートセンター / (株) アサヒコミュニケーションズ / FM NACK5 / 東京ガス(株) / カヤバ システム マシナリー(株) / (株) タムロン / (株) 十万石ふくさや
森平舞台機構(株) / 東芝エルティエンジニアリング(株) / 埼玉トヨタ自動車(株) / (有) 齋賀設計工務 / 武蔵野銀行 / 浦和ロイヤルパインズホテル / アルビーノ村
国際照明(株) / 三国コカ・コーラボトリング(株) / 埼玉スバル / 桶本興業(株) / (株) 佐伯紙工所 / (株) 太陽商工 / (株) しまむら / (有) 六辻ゴルフセンター / 不動産発(株)
ビストロ やま / 埼玉縣信用金庫 / (株) 栗原運輸 / 彩の国SPグループ / (有) ブラネッツ / 関東自動車(株) / (株) デサン / セントラル自動車技研(株) / 丸美屋食品工業(株)
ボラスグループ / ひがし歯科 / 埼玉トヨペット(株) / 公認会計士 宮原敏夫事務所 / (株) 価値総合研究所 / (株) 埼玉交通 / 医療法人 顕正会 蓮田病院 / (株) ウイズネット
サイデン化学(株) / アイル・コーポレーション(株) / 五光印刷(株) / 旭ビル管理(株) / ヤマハサウンドシステム(株) / (株) エヌテックサービス / (株) クリーン工房 / (株) つばめタクシー
(株) サンワックス / (株) 総合舞台 / (株) タクトコーポレーション / 広総業(株) / (財) さいたま住宅検査センター / (株) 国大セミナー / (株) NEWSエンターテインメント
(株) オーガス / イープラス / 六三四堂印刷(株) / 医療法人 櫻会 林整形外科 / 埼玉県整形外科医会 / 医療法人社団 山粋会 山崎整形外科 / サンケイリビング新聞社 / (株) 三和広告社
(株) セノン / 東京新聞ショッパー / (株) 松尾楽器商会 / (有) 中央舞台サービス / JA埼玉県中央会 / 日本大学芸術学部 / (株) 川口自動車交通 / (株) ホンダカーズ埼玉
ファミリーマートあすまや / (株) セブンドリーム・ドットコム / (有) 杉田電機 / 丸茂電機(株) / 太平ビルサービス(株) / さいたま支店 / (株) 片岡食品 / (株) 協栄
(株) ヨコハマタイヤジャパン / NTT東日本 埼玉支店 / チャコット(株) / (株) 平和自動車 / 光陽オリエントジャパン(株) / 埼玉建設(株) / さくらMusic office / 神田大塚法律事務所

【問合せ先】(公財) 埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポーター会員担当 TEL 048-858-5507

H25.12.25 現在 / 一部未掲載



戯曲になったローマの英雄たち



ジュリアス・シーザー
(ユリウス・カエサル)

カリギュラはローマ帝国3代皇帝として紀元37年に25歳で即位。だが在位4年で暗殺され、29歳で生涯を閉じる。ローマの礎を築いたユリウス・カエサル(英語読みがジュリアス・シーザー)家の血を引くというだけで皇帝にのし上がった生意気な若者だったが、政治も軍務も経験ナシの未熟者に大任が務まるわけもない。月光を愛し、派手好きで、実の妹たちと次々に関係し、宮殿内に売春宿を設けるなど文字通りのやりたい放題。狂気の皇帝が暗殺されるのも必然の流れで、「英雄」どころか悪名高き狂帝としてローマ帝国の歴史に刻まれる。カミュはそんなカリギュラに心を寄せ、戯曲『カリギュラ』にほとぼしる想いを結実させた。破滅へとひた走る若き皇帝の欲望は、ひりつく痛みと共に烈しい言葉となって周囲の人間を刺し貫く。

カリギュラに対して、紛れもなき「英雄」が前述のカエサル＝シーザーだ。戦術・人心掌握術に優れ、民衆の支持も絶大。彼を題材にした伝記・創作は数知れず、その代表格がシェイクスピアの史劇『ジュリアス・シーザー』である。有名な「ブルータス、お前もか」のほか、シーザーを暗殺したブルータスの演説、彼を巧妙に追い込むシーザーの腹心アントニーの演説など聴きどころ揃いの大作は、いよいよ今秋、彩の国シェイクスピア・シリーズ第29弾として登場が決定。上演済みの『アントニーとクレオパトラ』はそのアントニーの後日譚で、シーザーの元愛人クレオパトラとの恋に溺れるかつての英雄が、愚かしくもなぜか愛しい。

彩の国シェイクスピア・シリーズ
第24弾「アントニーとクレオパトラ」
安蘭けいと吉田鋼太郎(2011年)
撮影◎清田征剛

